

令和4年度校内研究について

(1) 研究主題

『言葉と向き合い、共に読みを深める児童の育成』

～課題設定を工夫した文学的文章の授業づくり～

※ わかくさ学級については文学的文章に限らず、国語科の授業研究を行う。

(2) 研究主題設定の理由

今日の複雑で変化の大きい社会の中では、様々な情報を受け止め、主体的に判断しながら課題を解決していくことが必要とされています。さらに、問題発見・解決のプロセスの中で、知っていること・できることをどう活用するか（思考力、判断力、表現力の育成）が重要とされ、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が求められています。

本校では長年にわたり国語の研究に取り組んでいます。平成29年度から、文学的文章の指導法の研究を行い、対話的な学びを工夫することで思考力・判断力・表現力の育成を図ってきました。

一昨年度は感染症予防の観点から十分にできていない内容もありましたが、昨年度は国語研究のスタンダードに戻すべく、各学年がコロナ禍における対話的活動を研究し、提案し合う1年となりました。

今年度は昨年度の成果と課題をふまえ、「学びを深められるような課題設定や発問」「言葉に注目した学習方法」等、学習の核となる課題設定・発問に焦点を当て、平成29年度からの研究を深化・発展させられるように、今までの取組を生かしながら研究を進めていきたいと考えています。

研究構想図

教育目標より
よく考え すすんで学習

<児童の実態>

- ・話し合い活動を通して、自身の考えを深めたり、高めたりすることに課題がある。

<教師の願い>

- ・話を聞いて自分の考えをもって応えることができるようになってほしい。
- ・児童同士で問題解決できるようになってほしい。
- ・学級全体で深めることができるようになってほしい。

<新学習指導要領の告示から>

- ・各教科等の目標及び内容が、育成すべき資質・能力の三つの柱で整理された。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められた。

<令和3年度の研究の課題>

- ・学びを深められるような課題設定や発問とは
- ・学習課題における児童の意見や感想と教師のねらいとの相違
- ・言葉にこだわった学習をするための課題設定や授業の組み立て方

『言葉に向き合い、共に読みを深める児童の育成』
～課題設定や発問のしかたを工夫した文学的文章の授業づくり～

<主題に基づく研究仮説>

学習課題の設定、発問の言葉や方法を吟味、工夫することで、言葉を意識して自分の考えをもたせることができ、さらに共有することで作品の本質に迫る深い読みが実現できるのではないだろうか。

<目指す児童像>

- ①文章の内容を根拠に、自分の考えを明確にしながら読む児童
- ②自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて理解しようとしたりする児童
- ③自分の考えと友達の考えを比較して、よりよい考えを生み出すことのできる児童
- ④学習したことを基に、すすんで本を読んだり、考えを深めたりすることができる児童

A：主題に迫る手立て

- ① **ねらいの焦点化**
- ② 自分の考えをもつ工夫
- ③ **「深い学び」になるための工夫**
- ④ 国語力育成の工夫

①③について、今年度の研究の柱として、協議を進めていく。

B：言語環境の整備

- ・『言葉のコーナー』の設置
- ・始業、終業の挨拶の工夫
- ・日常的な言葉を豊かにする活動の充実（百人一首、朝の詩など）
- ・読書活動推進のための工夫（読書旬間の設定、読書の木など）